小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	特定非営利活動法人 オーバル	代表者	室井　啓子
事業所名	おーばる・ほーむ	管理者	室井　啓子

法人・事業所の特徴	平成 30 年は、開設 5 周年をご本人やご家族とともに周辺地域の方々を交えてお祝いをしました。地域の自然を満喫する体力づくりで散歩をすること、スタッフとともに温かい食事を作る等で、在宅生活を続けるための環境整備の支援に力を入れています

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	4 人	0 人	0 人	1 人	2 人	2 人	人	12 人

項　　目	前回 30 年の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	説明・報告を丁寧に行う	成果はみられているが、改善点の具体性に欠ける	「例えば」を上げると解りやすくなる	共通する具体的な表現をして、記録の簡素化を図る
B．事業所のしつらえ・環境	近隣地域の方に協力して頂く	自治会福祉部、車いすの会、傾聴の会個人のボランティアの参加もあり成果が出ている	地域に、「おーばる・ほーむ」があることは心強い	現在の環境を大事にしながら継続する
C．事業所と地域のかかわり	事業の説明を周辺地域対象に行う	他の地域で知られているかは解り辛い。近隣地域の行事・イベントには参加している	開成校とつながりを持つ、連絡会で小規模多機能型居宅介護のＰＲをする。サロン廻りをする	包括と協働で周辺地域内のサロンに出向き 1 回/年の話し合いを検討する
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	情報収集と顔なじみになる	取組みは報告から知ることができている	この項目の内容が解り難い つながりが希薄な社会での取り組みは難しい	各自の情報を積極的に集める
E．運営推進会議を活かした取組み	福祉の充実に向け、周辺地域の困り事に協力する	着実に積極的に取組んでいる	委員会を重ねることで分ってきた。地域の困りごとまで関わるのは施設として大変ではないか	協力し合う関係をつくるためにも意見交換、情報の共有をする
F．事業所の防災・災害対策	避難先として第一段階・第二段階の協力先を作る	訓練の報告や、地域の取組みに参加しているが、事業所の防災訓練に参加したことがない	近隣の避難先の検討が必要。 施設を頼ってはいけないのではと考えてしまう	地域の防災との連携を図る